

Lenovo

Microsoft System Center Configuration Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator System Updates

インストールおよびユーザー・ガイド



バージョン 7.9.0

注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、31 ページの付録 C「注記」に記載されている情報をお読みください。

第 6 版 (2020 年 3 月)

© Copyright Lenovo 2014, 2020.

Portions © Copyright IBM Corporation 2014

制限付き権利に関する通知: データまたはソフトウェアが米国一般調達局 (GSA: General Services Administration) 契約に準じて提供される場合、使用、複製、または開示は契約番号 GS-35F-05925 に規定された制限に従うものとします。

目次

本書について	iii	Lenovo XClarity Integrator System Updates.	9
規則および用語	iii	「Home (ホーム)」ビューの使用	9
Web リソース	iii	製品カタログ・ビューの使用	16
第 1 章 . Microsoft System Center Configuration Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator System Updates	1	第 6 章 . Microsoft System Center Configuration Manager の操作	21
Lenovo XClarity Integrator System Updates によるシステム・サポートの提供方法	1	WSUS から SCCM への Lenovo 更新バンドルの同期	21
第 2 章 . システム要件	3	Lenovo 更新バンドルの最大実行時間を構成する	23
第 3 章 . サポートされるハードウェアおよびソフトウェア	5	SCCM での Lenovo 更新バンドルの状態の表示	23
サポートされる Microsoft System Center 製品	5	SCCM での Lenovo 更新バンドルのデプロイ	24
サポートされているシステム	5	クライアント・システムの構成	24
クライアント・マシンでサポートされるオペレーティング・システム	6	クライアント・システムへの Lenovo 更新バンドルのデプロイ	26
クライアント・マシンおよびサーバー・マシンに必要なソフトウェア	6	クライアント・システムへの Lenovo 更新バンドル (補足バンドル付き) のデプロイ	26
第 4 章 . Lenovo XClarity Integrator System Updates のインストール	7	付録 A. トラブルシューティング	27
Lenovo XClarity Integrator System Updates のインストール	7	XClarity Integrator System Updates のログ・ファイルを構成する方法	27
Lenovo XClarity Integrator System Updates のアンインストール	8	更新が WSUS に公開されない	27
第 5 章 . Lenovo XClarity Integrator System Updates および Microsoft System Center Configuration Manager との連携	9	ファイル署名の検証が失敗するエラーが原因で、WSUS への更新が公開されない	27
		XClarity Integrator System Updates の実行中に、レジストリー内のログ・レベル値の変更が有効にならない	27
		付録 B. アクセシビリティ機能	29
		付録 C. 注記	31
		商標	31
		重要事項	32

本書について

このユーザーズ・ガイドには Microsoft System Center Configuration Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator System Updates の最新情報が掲載されています。Lenovo XClarity Integrator System Updates ツールは、ご使用の環境の Lenovo システム更新を入手および公開するために使用します。

規則および用語

太字の「注」、「重要」、または「注意」で始まっているパラグラフは、重要な情報を強調する特定の意味を持つ注意書きです。

注：これらの特記事項は重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供します。

重要：これらの特記事項は、不都合なまたは困難な状態を避けるために役立つ情報またはアドバイスを提供します。

注意：これらの特記事項は、プログラム、デバイス、またはデータへの考えられる損傷を示します。損傷が起これる指示または状態の前には警告通知が表示されます。

本書で使用されている用語、頭字語、および省略語のいくつかについて、下の表で説明します。

表 1. 頻繁に使用される用語と頭字語

用語/頭字語	定義
SCCM	System Center Configuration Manager
SSL	セキュア・ソケット・レイヤー
WSUS	Windows Server Update Services
Lenovo XClarity Essentials OneCLI	Lenovo サーバーの管理に使用できる複数のコマンド・ライン・アプリケーションのコレクションです。

Web リソース

以下の Web サイトでは System x[®]、Flex System、BladeCenter サーバー、およびシステム管理ツールの理解、使用、およびトラブルシューティングに役立つリソースが提供されています。

Lenovo サーバー対応 Microsoft Systems Management Solutions の Lenovo Web サイト

System Center Configuration Manager 用の最新のダウンロードがあります。

- [Lenovo XClarity Integrator System Updates Web サイト](#)

Lenovo XClarity ソリューションを使用したシステム管理

この Web サイトでは、Lenovo XClarity ソリューションの概要について説明します。このソリューションは、System x および Flex System ハードウェアに統合され、システム管理機能を提供します。

- [Lenovo XClarity ソリューションを使用したシステム管理についての Web サイト](#)

Lenovo テクニカル・サポート・ポータル

この Web サイトは、ハードウェアおよびソフトウェアのサポートを見つける役に立ちます。

- [Lenovo サポート・ポータル Web サイト](#)

Lenovo ServerProven**Web サイト**

この Web サイトでは、Lenovo ThinkSystem、System x、BladeCenter、および Flex System とのハードウェア互換性に関する情報を提供します。

- [Lenovo ServerProven 互換性 Web サイト](#)

Microsoft System Center**Web サイト**

この Web サイトは、Microsoft System Center 製品の検索に役立ちます。

- [Microsoft System Center Web サイト](#)

第 1 章 Microsoft System Center Configuration Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator System Updates

このセクションのトピックでは、Microsoft System Center Configuration Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator System Updates の概要 (これ以降、「Lenovo XClarity Integrator System Updates」と呼びます)、および製品の機能について説明します。

コンピューターの BIOS、ファームウェア、ドライバー、およびハードウェア関連のアプリケーションを最新の状態に保持することは、IT 管理者の重要なアクティビティです。IT 管理者にとって、環境を安定した信頼できる状態で保持するために、準拠性の判別、更新の計画、適切なハードウェア更新の選択、正しいシステム集合への更新の展開を行うことは、複雑で時間がかかることです。

Microsoft System Center 製品、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) および Windows Server Update Services (WSUS) の連携を通じて、Lenovo XClarity Integrator System Updates は確実に、最新の IT 環境を保持するための時間と労力を節減します。

Lenovo XClarity Integrator System Updates によるシステム・サポートの提供方法

Lenovo XClarity Integrator System Updates には、マシン・タイプ・ベースのダウンロード・メカニズムが備わっています。このメカニズムを使用すれば、Lenovo Web サイト経由で更新を検索することなく、最新の Lenovo システム更新ソフトウェアを容易にダウンロードできます。

Lenovo XClarity Integrator System Updates を使用すると、カタログ・ファイル (最新の更新を提供していない場合があります) を使用せずに最新の更新を適用できるようになります。

第 2 章 システム要件

このセクションのトピックでは、Lenovo XClarity Integrator System Updates のハードウェアおよびソフトウェア要件について説明します。

ハードウェア要件

Lenovo XClarity Integrator System Updatesには、特定のハードウェア要件はありません。Lenovo XClarity Integrator System Updates は、Windows オペレーティング・システムをサポートする Lenovo または Lenovo 以外のサーバー、ワークステーション、ラップトップで実行できます。

サポートされているオペレーティング・システム

Lenovo XClarity Integrator System Updatesは、以下のWindowsオペレーティング・システムをサポートします。

- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012
- Windows 2012 R2
- Windows Server 2008 SP1/R2
- Windows Server 2008 SP1/SP2
- Windows Server 2008 SP1/SP2 x64

必要なソフトウェア

Windows Server Update Services 3.0 SP1 以降のバージョンの管理コンソールが必要です。Windows Server Update Services 3.0 SP1 以降のバージョンがローカル・コンピューターにインストールされていない場合、Updates Publisher Setup を実行する前に、Windows Server Update Services 3.0 SP1 以降の管理コンソールをインストールする必要があります。

WSUSのバージョンが4.0より前の場合は、WSUSパッチが必要です。このパッチは[Windows Server Update Services 3.0 Service Pack 2 用の更新プログラムについて Web ページ](#)からダウンロードできます。

ホスト・コンピューターにLenovo XClarity Integrator System Updatesをインストールするために使用するアカウントには、Windows Server Update Services 管理者特権が必要です。

第3章 サポートされるハードウェアおよびソフトウェア

このセクションのトピックでは、Lenovo XClarity Integrator System Updates でサポートされるハードウェアおよびソフトウェアについて説明します。

サポートされる Microsoft System Center 製品

Lenovo XClarity Integrator System Updates は以下のMicrosoft System Center製品をサポートします。

- Microsoft System Center Configuration Manager 1902
- Microsoft System Center Configuration Manager 2016
- Microsoft System Center Configuration Manager 2012
- Microsoft System Center Configuration Manager 2012 R2
- Microsoft System Center Configuration Manager 2012 SP1
- Microsoft System Center Configuration Manager 2007 R2
- Microsoft System Center Configuration Manager 2007 SP2

サポートされているシステム

Lenovo XClarity Integrator System Updatesは、以下のシステムをサポートします。

表 2. サポートされる Lenovo ハードウェア

システム	サーバー・モデル
ThinkSystem サーバー	<ul style="list-style-type: none">• SD530 (7X20、7X21、7X22)• SE350 (7D1X、7D27、7Z46)• SN550 (7X16)• SN850 (7X15)• SR150 (7Y54)• SR158 (7Y55)• SR250 (7Y51、7Y52、7Y72、7Y73)• SR258 (7Y53)• SR530 (7X07、7X08)• SR550 (7X03、7X04)• SR570 (7Y02、7Y03)• SR590 (7X98、7X99)• SR630 (7X01、7X02)• SR650 (7X05、7X06)• SR850 (7X18、7X19)• SR850P (7D2F、7D2G、7D2H)• SR860 (7X69、7X70)• SR950 (7X11、7X12、7X13)• ST250 (7Y45、7Y46)• ST258 (7Y47)• ST550 (7X09、7X10)• ST558 (7Y15、7Y16)
Lenovo ThinkAgile HX シリーズ	<ul style="list-style-type: none">• HX1310/2310/3310 (8693)• HX1320/2320/3320 (7X83)• HX1321/2321/3321/7321 (7Y89、7Z04)• HX1520/3520/5520/7520 (7X84)• HX1521/3521/5521/7521 (7Y90、7Z05)• HX2720/3720 (7X82)• HX3510/5510/7510 (8695)• HX3721/7721 (7Y88、7Z03)• HX7520 (7Z44)• HX7521 (7Z45)

表 2. サポートされる Lenovo ハードウェア (続き)

システム	サーバー・モデル
	<ul style="list-style-type: none"> • HX7820 (7Y95、7Z08) • HX7821 (7Y96、7Z09)
NeXtScale サーバー	<ul style="list-style-type: none"> • nx360 M5 (5465) • nx360 M5 DWC (5467、5468、5469)
System x サーバー	<ul style="list-style-type: none"> • x3250 M6 (3633、3943) • x3500 M5 (5464) • x3550 M4 (7914) • x3550 M5 (5463、8869) • x3630 M4 (7158、8103) • x3650 M4 (7915) • x3650 M5 (5462、8871) • x3750 M4 (8753) • x3850 X6/x3950 X6 (6241)
Flex 計算ノード	<ul style="list-style-type: none"> • Flex System x240 計算ノード (2588、7162) • Flex System x240 M5 計算ノード (2591、9532) • Flex System x280、x480、x880 X6 計算ノード (4258、7196) • Flex System x440 計算ノード (2590、7167)

クライアント・マシンでサポートされるオペレーティング・システム

クライアント・マシンでは、以下の Windows オペレーティング・システムがサポートされます。

- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows 2012 R2
- Windows Server 2012 SP1
- Windows Server 2008 SP1/R2
- Windows Server 2008 SP1/SP2
- Windows Server 2008 SP1/SP2 x64
- Windows Server 2003 SP2/R2
- Windows Server 2003 SP2/R2 x64

クライアント・マシンおよびサーバー・マシンに必要なソフトウェア

Microsoft .NET Framework バージョン 4.0 以降のバージョンは、サーバーおよびクライアント・マシンの両方にインストールする必要があります。

第 4 章 Lenovo XClarity Integrator System Updates のインストール

このセクションのトピックでは、Lenovo XClarity Integrator System Updates のインストールおよびアンインストール方法について説明します。

Lenovo XClarity Integrator System Updatesのインストール

以下の手順では、Lenovo XClarity Integrator System Updates のインストール方法について説明しています。

このタスクについて

Microsoft System Center Configuration Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator System Updates セットアップ・パッケージ (EXE ファイル) を使用して、アプリケーションをインストールします。

手順

ステップ 1. [Lenovo XClarity Integrator System Updates Web サイト](#) に進みます。

ステップ 2. 最新バージョンの Lenovo XClarity Integrator System Updates をダウンロードします。

ステップ 3. ウィザードの指示に従って、Lenovo XClarity Integrator System Updates をインストールします。

プログラムが開始すると、Lenovo XClarity Integrator System Updates の「Preparing to Install (インストールの準備)」ページが表示されます。

ステップ 4. 「Next (次へ)」をクリックすると、「InstallShield Wizard (InstallShield ウィザード)」が開始されます。インストールを停止する必要がある場合は、「Cancel (キャンセル)」をクリックします。

ステップ 5. 「Next (次へ)」をクリックしてインストールを続行し、「License Agreement (使用許諾契約書)」に進みます。

ステップ 6. 「Destination Folder (宛先フォルダー)」ページで、「Next (次へ)」をクリックしてデフォルトのインストール・ディレクトリを受け入れるか、「Change (変更)」をクリックして新しい場所を入力します。

「Ready to Install the Program (プログラムをインストールする準備完了)」ページが開きます。

ステップ 7. 「Install (インストール)」をクリックし、インストールを開始します。インストールの進行状況ページが表示されます。

インストールが終了すると、「InstallShield Wizard Completed (InstallShield ウィザード完了)」ページが開きます。

ステップ 8. 以下のいずれかのオプションを選択します。

「Finish (終了)」をクリックして、インストール操作を終了します。

「Launch the Post Action of Lenovo System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager (Microsoft System Center Configuration Manager 対応 Lenovo System Updates のポスト・アクションを起動する)」を選択して、Lenovo XClarity Integrator System Updates の「Setup (セットアップ)」ウィザードを開始します。

注：アプリケーションのホーム・ページから「Setup Wizard (セットアップ・ウィザード)」を起動することもできます。

Lenovo XClarity Integrator System Updatesのアンインストール

Lenovo XClarity Integrator System Updates をアンインストールするには、以下を行います。

「**Add or Remove Programs** (プログラムの追加と削除)」オプションを使用してアンインストールする。Windows Server 2008 オペレーティング・システムの場合は、「**Programs and features** (プログラムと機能)」を使用してアンインストールすることができます。

注：アンインストール処理中に、ログ・ファイルと更新リポジトリ・フォルダーは削除されません。必要に応じて、手動で削除することができます。

第 5 章 Lenovo XClarity Integrator System Updates および Microsoft System Center Configuration Manager との連携

このセクションのトピックでは、Lenovo XClarity Integrator System Updates および Microsoft System Center Configuration Manager を連携させる方法について説明します。

Lenovo XClarity Integrator System Updates

Lenovo XClarity Integrator System Updates は、Lenovo Web サイトから更新を取得し、その更新を WSUS サーバーに公開する機能を提供します。

Lenovo XClarity Integrator System Updates を使用すると、お客様固有のマシン・タイプに関して、設定の構成、マシン・リストの維持、および更新の管理が容易になります。

ナビゲーション・ペインは、次のビューで構成されます。

- ホーム
- 製品カタログ

「Home (ホーム)」ビューの使用

「Home (ホーム)」ビューには、Lenovo XClarity Integrator System Updates での作業を始めるために役立つ 3 つのオプションが用意されています。

「Setup (セットアップ)」ウィザード

「Setup Wizard (セットアップ・ウィザード)」オプションは、Lenovo XClarity Integrator System Updates 設定を構成するための手順をガイドします。

Getting Started (はじめに)

「Getting Started (はじめに)」オプションは、Lenovo XClarity Integrator System Updates を操作するためのマシン・タイプ・リストを作成することによって、システムの更新を始める場合に使用します。

「Setup (セットアップ)」ウィザード

Setup Wizard (セットアップ・ウィザード) は、Lenovo XClarity Integrator System Updates の構成設定のセットアップを完了するための手順をガイドします。

この構成設定のセットアップが完了すれば、「File (ファイル)」 → 「Preferences (設定)」をクリックすることで、構成設定を表示したり編集したりできます。

WSUS サーバーの構成

以下の手順は、WSUS サーバーの構成方法を記述したものです。WSUS サーバーは、公開を行うために使用されます。正常に更新を公開するには、管理権限が必要です。

手順

ステップ 1. 以下の WSUS サーバー・オプションのいずれかを選択します。

Lenovo XClarity Integrator System Updates がインストールされているサーバーと同じサーバーを WSUS 用には、「Connect to a local update server (ローカル更新サーバーに接続する)」をクリックします。

ネットワーク経由で更新を WSUS サーバーに公開するには、「Connect to a remote update server (リモート更新サーバーに接続する)」オプションをクリックし、WSUS 更新サーバーの

名前と、そのサーバーへの接続に使用するポートを指定します。WSUS 更新サーバーの名前として、ホスト名または IP アドレスを使用できます。

このオプションを選択した場合、「Use Secure Sockets Layer (SSL) (セキュア・ソケット・レイヤー (SSL) を使用する)」を選択すれば、セキュア・ソケット・レイヤーを使用できます。セキュア・ソケット・レイヤーについて詳しくは、10 ページの「WSUSサーバーでの Secure Sockets Layer の使用 (オプション)」を参照してください。

ステップ 2. 「Next (次へ)」をクリックして WSUS 構成を続けます。

WSUSサーバーでの Secure Sockets Layer の使用 (オプション)

Lenovo XClarity Integrator System Updates を使用すれば、セキュア・ソケット・レイヤー (SSL) を利用して WSUSサーバーに更新を公開できます。SSL は、接続を保護することができ、Lenovo XClarity Integrator System Updates と WSUSサーバーの間で転送されるデータを暗号化することができます。

このタスクについて

リモート WSUS サーバー用に SSL を選択した場合は、以下の手順に従って環境を構成してください。

WSUSサーバーで SSL を構成する方法については、WSUS ヘルプ資料の「*Using SSL with WSUS*」を参照してください。また、Internet Information Services (IIS) ヘルプ資料の「*Secure Sockets Layer*」も参照してください。これらのヘルプ資料は、WSUSおよび IIS ツールをインストールすると使用可能になります。

手順

ステップ 1. SSL 証明書ファイルを Lenovo XClarity Integrator System Updates コンピューターに追加します。SSL 証明書を以下のロケーションにインポートしてください。

- 信頼された発行元
- 信頼されたルート証明機関

ステップ 2. Lenovo XClarity Integrator System Updates を使用して「SSL support for this WSUS server (この WSUS サーバーの SSL サポート)」を有効にするには、以下の手順を実行します。

1. リモート・サーバーに接続したときと同じ方法でローカル・サーバーに接続します。
2. SCCM コンソールで「SSL support (SSL サポート)」を有効にします。
3. Microsoft System Center Configuration Manager の該当するバージョンを選択します。SCCM コンソールを起動し、「Administration (管理)」 → 「Site Configuration (サイト構成)」 → 「Sites (サイト)」 → %Site Name% (%サイト名%) → 「Configure Site Components (サイト・コンポーネントの構成)」を選択します。以下のページが表示されます。

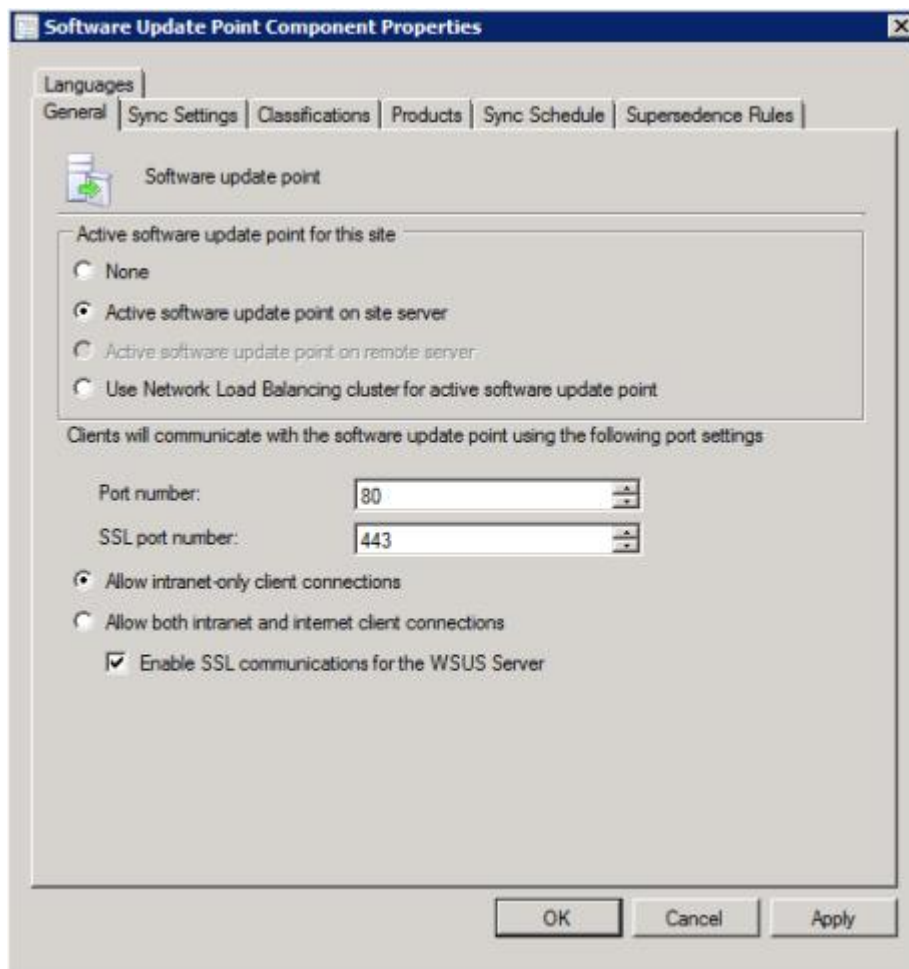


図 1. ソフトウェアの更新ポイントのコンポーネント・プロパティ

4. 「Software Update Point Component (ソフトウェアの更新ポイント コンポーネント)」を開いて「SSL support (SSL サポート)」を使用可能にします。

注：WSUSサーバー名は、SSL 証明書内の「Issued to name (発行先名)」と同じでなければなりません。

ステップ 3. SSL 証明書ファイルをクライアント・コンピューターに追加します。

ステップ 4. SSL 証明書を「Trusted Publishers (信頼された発行元)」および「Trusted Root Certification Authorities (信頼されたルート証明機関)」にインポートします。

WSUSサーバー証明書の構成

このセクションのトピックでは、WSUSサーバーのデジタル証明書の構成方法について説明します。

このタスクについて

「WSUS Server Certificate (サーバー証明書)」 ページで、WSUS サーバーのデジタル証明書を構成することができます。

手順

ステップ 1. 証明書を選択または作成するには、以下のいずれかのオプションを選択します。

サード・パーティー証明書にナビゲートし、それを選択するには、「**Browse (参照)**」をクリックします。

新しい自己署名証明書を生成するには、「**Create (作成)**」をクリックします。

注：Windows 2012 R2 以降のバージョンでは、WSUS は自己署名証明書を発行しなくなりました。証明書は、認証局をインストールすることによって作成できます。詳しくは、[Microsoft System Center – Install the Certification Authority Web ページ](#)を参照してください。

ステップ 2. 「**Next (次へ)**」をクリックします。

次に行うこと

デジタル証明書は、更新の署名に使用します。Lenovo 更新を SCCM サーバーに公開するには、事前に証明書を System Center Configuration Manager 更新サーバー上の該当する証明書フォルダーにコピーすることによって追加する必要があります。また、証明書を Lenovo XClarity Integrator System Updates コンピューターにもコピーし、更新サーバーに同じ証明書が確実にあるようにしてください。

証明書がWSUSサーバー上にない場合、Lenovo XClarity Integrator System Updatesによって、WSUSサーバー上で自己署名証明書を生成するように要求するプロンプトが出されます。

注：Lenovo XClarity Integrator System Updatesは、第三者機関の証明書のインポートもサポートします。サード・パーティー証明書をインポートするには、「**Browse (参照)**」をクリックし、「**third-party certificate (サード・パーティー証明書)**」を選択します。

証明書の追加

以下の手順は、適切な証明書フォルダーに証明書を追加する方法を説明しています。

手順

ステップ 1. 「**Start (スタート)**」 → 「**Run (ファイル名を指定して実行)**」をクリックします。

ステップ 2. コマンドラインに MMC を入力し、「**OK**」をクリックして、Microsoft Management Console (MMC) を開きます。

ステップ 3. 証明書を追加するには、「**File (ファイル)**」 → 「**Add/Remove Snap-in (スナップインの追加と削除)**」をクリックし、「**Add (追加)**」をクリックします。

ステップ 4. 「**Certificates (証明書)**」をクリックし、「**Add (追加)**」をクリックします。

ステップ 5. 「**Computer account (コンピュータ アカウント)**」を選択し、「**Next (次へ)**」をクリックします。別のコンピューターを選択するには、更新サーバーの名前を入力するか、「**Browse (参照)**」をクリックして更新サーバー・コンピューターを見つけます。更新サーバーが同じサーバー上にある場合は、このウィンドウで「**Local computer (ローカル コンピューター)**」を選択します。

ステップ 6. 「**OK**」をクリックして、「**Add/Remove Snap-in (スナップインの追加と削除)**」ウィザードを閉じます。

ステップ7. 「Certificates (証明書)」を展開してから「WSUS」を展開し、「Certificates (証明書)」をクリックします。

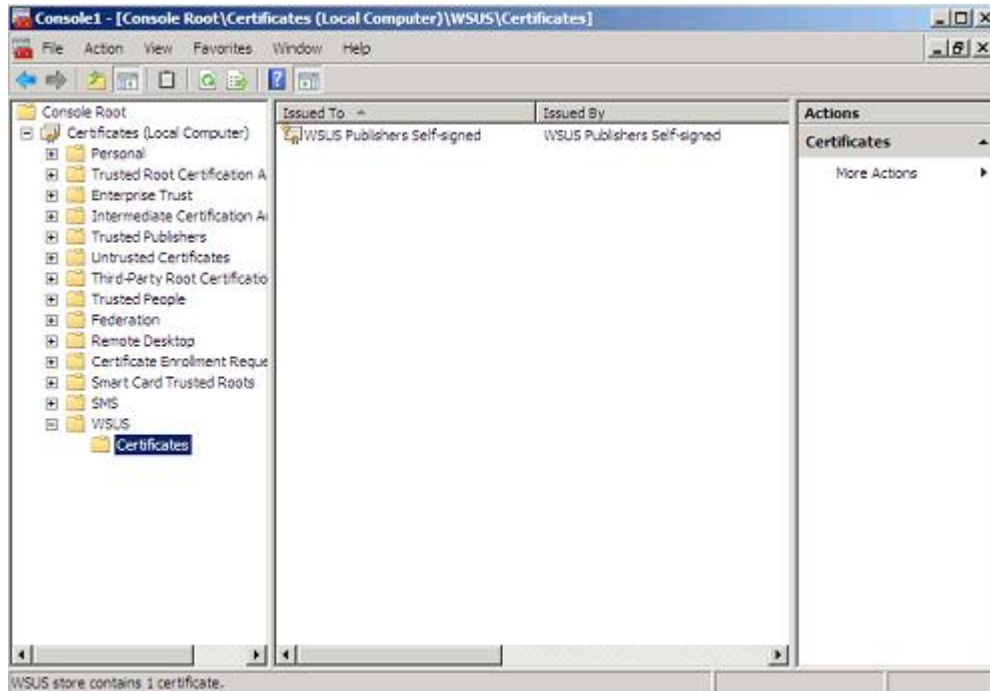


図2. コンソール 1 - WSUS 証明書

ステップ8. 中央のペインでcertificate name (証明書名)を右クリックして、「All Tasks (すべてのタスク)」を選択し、「Export (エクスポート)」をクリックします。
Certificate Export Wizard (証明書のエクスポートウィザード)が開始されます。

ステップ9. デフォルト設定を使用して、ウィザードで指定された名前と場所でエクスポート・ファイルを作成します。
次のステップに進む前に、このファイルが更新サーバーから使用可能になっていなければなりません。

ステップ10. 「Trusted Publishers (信頼された発行元)」を右クリックして、「All Tasks (すべてのタスク)」を選択し、「Import (インポート)」をクリックします。ステップ6でエクスポートしたファイルを使用して、「Certificate Import Wizard (証明書のインポートウィザード)」を完了します。

ステップ11. 自己署名証明書 (WSUS Publishers Self-signed など) を使用している場合は、「Trusted Root Certification Authorities (信頼されたルート証明機関)」を右クリックし、「All Tasks (すべてのタスク)」、「Import (インポート)」の順に選択します。ステップ6でエクスポートしたファイルを使用して、「Certificate Import Wizard (証明書のインポートウィザード)」を完了します。

ステップ12. Updates Publisher コンピューターが更新サーバーに対してリモート・コンピューターである場合、ステップ7と8を繰り返して、証明書を Updates Publisher コンピューターの証明書フォルダーにインポートします。

クライアント・コンピューターで、Windows Update Agent が更新のスキャンを行います。

重要：ローカル・コンピューターの「信頼された発行元」フォルダーにデジタル証明書が見つからない場合、最初のインストール・アクションは失敗します。更新カタログを公開したときに自己署名証明書 (WSUS Publishers Self-signed など) が使用された場合、証明書の妥当性を検証するために、その証明書もローカル・コンピューターの「Trusted Root

Certification Authorities certificate (信頼されたルート証明機関) の証明書フォルダーになければなりません。

証明書の構成および証明書への署名

以下の手順は、証明書を構成して、その証明書に署名する方法を記述したものです。

このタスクについて

クライアント・コンピューターで証明書を構成して、その証明書に署名する方式は2つあります。

- **Using Group Policy and the Certificate Import Wizard (グループ・ポリシーおよび証明書インポート・ウィザードの使用)**: 12 ページの「証明書の追加」に記載された手順を実行します。
- **Using the certificate utility and software distribution (証明書ユーティリティーおよびソフトウェア配布の使用)**: 以下の手順にあるステップを実行します。

手順

- ステップ 1. Microsoft 管理コンソール (MMC) を開くには、「**Start (スタート)**」 → 「**Run (ファイル名を指定して実行)**」をクリックし、テキスト・ボックスに MMC と入力して「**OK**」をクリックします。
- ステップ 2. 「**File (ファイル)**」をクリックし、「**Add/Remove Snap-in (スナップインの追加と削除)**」を選択します。
「Add/Remove Snap-in (スナップインの追加と削除)」ダイアログ・ボックスが開きます。
- ステップ 3. 「**Add (追加)**」をクリックし、「**Certificates (証明書)**」を選択して、「**Add (追加)**」をクリックします。
「Certificates Snap-in (証明書スナップイン)」ダイアログ・ボックスが開きます。
- ステップ 4. **Computer account (コンピューター・アカウント)** を選択し、「**Next (次へ)**」をクリックします。
「Select Computer (コンピューターの選択)」ダイアログ・ボックスが開きます。
- ステップ 5. 以下のいずれかのサーバー・オプションを選択します。

Another (別のコンピューター): 更新サーバーの名前を入力するか、「**Browse (参照)**」をクリックして更新サーバーを見つけます。

Local Computer (ローカル・コンピューター): 更新サーバーが同じサーバー上にある場合は、このオプションを使用します。
- ステップ 6. 「**Finish (終了)**」をクリックして、「**Add Standalone Snap-in (スタンドアロンスナップインの追加)**」ダイアログ・ボックスに戻ります。
- ステップ 7. 「**Close (閉じる)**」をクリックして、「**Add/Remove Snap-in (スナップインの追加と削除)**」ダイアログ・ボックスに戻ります。
- ステップ 8. 「**OK**」をクリックします。
- ステップ 9. MMC コンソールで、「**Certificates (証明書)**」 (更新サーバー名) を展開し、「**WSUS**」を展開して、「**Certificates (証明書)**」を選択します。
- ステップ 10. 結果ペインで **certificate (証明書)** を右クリックして「**All Tasks (すべてのタスク)**」を選択し、「**Export (エクスポート)**」を選びます。「**Certificate Export Wizard (証明書のエクスポートウィザード)**」に指定されている名前とロケーションで証明書エクスポート・ファイルを作成するには、デフォルト設定を使用してください。
- ステップ 11. 以下のいずれかの方式を選択して、更新カタログの署名に使用された証明書をクライアント・コンピューターごとに追加します。クライアント・コンピューターは、Windows Update Agentを使用してカタログ内の更新をスキャンします。

自己署名証明書の場合: 「Trusted Root Certification Authorities (信頼されたルート証明機関)」および「Trusted Publishers certificate (信頼された発行元の証明書)」フォルダーに証明書を追加します。

認証局 (CA) 発行の証明書の場合: 「Trusted Publishers certificate (信頼された発行元の証明書)」フォルダーに証明書を追加します。

注: Windows Update Agentは、「Group Policy (グループ・ポリシー)」設定がローカル・コンピュータで使用可能にされているかを確認します。Updates Publisher を使用して作成および公開された更新を Windows Update Agent でスキャンするには、「Group Policy (グループ・ポリシー)」設定が有効になっている必要があります。詳しくは、[Microsoft Windows Update Agent Web ページ](#)を参照してください。

アウトバウンド接続の構成

以下の手順は、アウトバウンド接続を構成する方法を記述したものです。

このタスクについて

アウトバウンド接続の構成には、次の図に示す3つのオプションがあります。

The local machine can access the Internet directly (ローカル・マシンはインターネットに直接アクセスできる)

このオプションを選択した場合、アウトバウンド接続用の追加のネットワーク構成は不要です。

The local machine requires an HTTP proxy to access the Internet (ローカル・マシンはインターネットへのアクセスに HTTP プロキシが必要)

このオプションを選択した場合は、Lenovo XClarity Integrator System Updates がインターネットに接続できるように HTTP プロキシをセットアップする必要があります。

The local machine will not have access to the Internet (ローカル・マシンはインターネットにアクセスできない)

このオプションを選択した場合は、更新が以前に保存されたローカル・リポジトリから更新を行うことができます。

注: Lenovo Web サイトから最新の更新を入手するには、インターネット接続が必要です。自動更新を選択していない場合は、手動で更新をローカル・リポジトリに入れる必要があります。

手順

ステップ 1. アウトバウンド接続オプションの1つを選択します。

注:

- 「The local machine requires an HTTP proxy to access the Internet (ローカル・マシンはインターネットへのアクセスに HTTP プロキシ・サーバーが必要)」オプションを選択した場合は、以下の情報を入力してください。
 - ホスト
 - ポート
- 「Authenticate using the following credentials (資格情報を使用して認証)」オプションを選択した場合は、以下の情報を入力します。
 - ユーザー名
 - パスワード
 - ステップ

ステップ 2. 「Next (次へ)」をクリックします。

「Configuring the local repository (ローカル・リポジトリの構成)」ページが開きます。16ページの「ローカル・リポジトリの構成」を参照し、このトピックに示されている手順を実行してください。

ローカル・リポジトリの構成

以下の手順は、更新用にローカル・リポジトリを構成する方法を記述したものです。

手順

- ステップ 1. 現行フォルダーを受け入れるか、または「**Browse** (参照)」をクリックして、ローカル・リポジトリで別のフォルダーを見つけます。
- ステップ 2. 「**Next** (次へ)」をクリックします。「**Confirm Setup** (セットアップの確認)」ページが開きます。
- ステップ 3. 「**Confirm** (確認)」をクリックして、前の設定を確認します。
「**Setup Finished** (セットアップが終了しました)」ダイアログ・ボックスが開きます。
- ステップ 4. 「**Finish** (終了)」をクリックして、「**Setup** (セットアップ)」ウィザードを完了します。

製品カタログ・ビューの使用

「**Product Catalog** (製品カタログ)」ビューでは、ナビゲーション・ペインに現行マシンのリストが示されます。

このタスクについて

「**Product Catalog** (製品カタログ)」ビューを使用するには、以下の手順を実行してください。

手順

- ステップ 1. 「**Home** (ホーム)」ビューで、「**Product Catalog** (製品カタログ)」を展開し、各マシンの更新の状況を表示します。
- ステップ 2. マシン・リストを追加または削除するには、「**Product Catalog** (製品カタログ)」をクリックします。
- ステップ 3. 「**Product Catalog** (製品カタログ)」の下にリストされているマシンを選択し、詳細な更新情報を表示します。更新情報が右ペインに表示されます。
- ステップ 4. 「**Actions** (アクション)」をクリックし、必要に応じて操作を選択します。
- ステップ 5. 右上のペインで、詳細情報を表示する更新を選択します。

「**Lenovo Machines** (Lenovo マシン)」ビューを使用したマシン・タイプの追加および削除

「**Lenovo Machines** (Lenovo マシン)」ビューには、Lenovo XClarity Integrator System Updates と連携できるシステム上のマシンのリストが示されます。ユーザーは、サポート・リストから1つまたは複数のマシン・タイプを追加または削除することができます。

手順

- ステップ 1. 左のナビゲーション・ペインで**Product Catalog**をクリックします。Lenovo XClarity Integrator System Updates を使用して管理されるマシン・タイプのリストが表示されます。
- ステップ 2. 必要に応じて以下のいずれかを実行します。
 - マシン・タイプを追加するには、**Add**をクリックして「**Add New Machine Types** (新しいマシン・タイプの追加)」ウィンドウを開き、1つまたは複数のマシン・タイプを選択して**OK**をクリックします。
 - マシン・タイプを削除するには、1つまたは複数のマシン・タイプを選択し、**Remove**をクリックします。

更新メタデータを Lenovo Web サイトから取得

以下の手順は、Lenovo Web サイトから特定のマシン・タイプに関する更新メタデータを取得する方法を記述したものです。

始める前に

この操作を行うには、インターネットへのネットワーク接続が必要です。HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスすることも、インターネットに直接接続することも可能です。

Lenovo Web サイトからの更新メタデータを取得するには、次の2つのオプションがあります。

- Lenovo から最新の更新メタデータを取得するには、「Retrieve metadata from Lenovo Latest version (Lenovo の最新バージョンからメタデータを取得する)」をクリックします。
- Lenovo から使用可能なすべての更新メタデータを取得するには、「Retrieve metadata from Lenovo - All versions (Lenovo のすべてのバージョンからメタデータを取得する)」をクリックします。

手順

ステップ 1. 「Actions (操作)」メニューをクリックして、「Retrieve metadata from Lenovo Latest version (Lenovo の最新バージョンからメタデータを取得する)」または「Retrieve metadata from Lenovo - All versions (Lenovo のすべてのバージョンからメタデータを取得する)」を選択します。このアクションにより、Lenovo Web サイトにある特定のマシン・タイプに関連する更新メタデータが取得されます。このプロセスは、完了するまでに数分かかる場合があります。

ステップ 2. 「メタデータの取得」プロセスが終了すると、更新が「Update (更新)」ビューに表示されます。ペイロードがダウンロードされていない場合、「Not downloaded (未ダウンロード)」が「ステータス」列に表示されます。

Lenovo Web サイトからの選択した更新のダウンロード

このトピックでは、選択した更新のペイロード・ファイルをLenovo Web サイトからダウンロードする方法について説明します。

始める前に

この操作を行うには、インターネットへのネットワーク接続とライセンスが必要です。HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスすることも、インターネットに直接接続することも可能です。

手順

ステップ 1. 更新を1つ以上選択し、

ステップ 2. 「Actions (操作)」リストで、「Download Selected updates from Lenovo (選択した更新をLenovo からダウンロード)」を選択します。「Download Wizard (ダウンロード・ウィザード)」が開きます。

ステップ 3. ダウンロードが完了したら、要約ページにダウンロード状況が表示されます。

更新をローカル・サイトからインポートする

Import Wizard (インポート・ウィザード) を使用して、ローカル・ディレクトリーまたは共用ネットワーク・ロケーションから更新をインポートできます。

始める前に

更新をインポートする前に:

- 更新パッケージをLenovoのWebサイトからZIPファイルでダウンロードした場合は、まず更新パッケージを解凍してください。
- 各更新パッケージにはペイロード・ファイルとメタデータ・ファイル(XML)が含まれており、いずれもXClarity Integrator System Updatesの更新プロセスで必要になります。

手順

- ステップ 1. 「Import Wizard (インポート・ウィザード)」を開始するには、ナビゲーション・ペインで「machine name (マシン名)」をクリックし、「Actions (操作)」リストから「**Import updates from local site (更新をローカル・サイトからインポート)**」を選択します。「インポート」ウィザードのウェルカム・ページが表示されます。
- ステップ 2. 「Next (次へ)」をクリックします。「Select Updates Source (更新ソースの選択)」ページが表示されます。
- ステップ 3. 「Browse (参照)」をクリックしてソース・フォルダーを選択し、「Next (次へ)」をクリックします。

注：Lenovo XClarity Integrator System Updates は、ルート・パスに更新をインポートします。サブディレクトリーにある更新はインポートされません。これらの更新をインポートするには、「Import Wizard (インポート・ウィザード)」を再度実行し、「Select Updates (更新の選択)」ページでサブディレクトリーを選択します。

- ステップ 4. 「Select Updates (更新の選択)」ページで、個々の更新を選択するか、「Select All (すべて選択)」を選択して選択可能なすべての更新を選択することができます。「Next (次へ)」をクリックして、Lenovo XClarity Integrator System Updates のローカル・リポジトリーに更新をインポートします。「Importing Updates (更新のインポート中)」ページに、インポートの進行状況が表示されます。
- ステップ 5. 更新のインポートが完了したら、「Next (次へ)」をクリックして、インポートされた更新の要約を表示します。「Import Finished (インポートが完了しました)」ページにインポート情報が表示され、インポートされた更新数と、それらの更新のリストが示されます。
- ステップ 6. 「Finish (終了)」をクリックします。

更新バンドルの作成

更新バンドルに 1 つまたは複数の更新が含まれています。OneCLI を使用して WSUS に発行し、クライアント・マシンにデプロイできます。

クライアント・マシン経由で WSUS に更新プログラムを公開するには、最初にこれらの更新のための更新プログラム・バンドルを作成します。

手順

- ステップ 1. ペイロードがダウンロードされた更新を 1 つまたは複数選択します。
- ステップ 2. 「Actions (操作)」リストから「Create update bundle (更新バンドルの作成)」を選択します。「Create Update Bundle (更新バンドルの作成)」ウィザードが表示されます。
- ステップ 3. バンドル名を入力し、「Confirm (確認)」をクリックします。更新バンドルが作成され、「Update Bundle (更新バンドル)」カテゴリーの下の「update (更新)」ビューに表示されます。

WSUSサーバーへの更新バンドルの公開

WSUSサーバーから直接更新バンドルを公開する方法について、以下の手順で説明します。

始める前に

Lenovo 更新を公開する前に、以下の手順を実行します。

- WSUS サーバーおよび証明書が正しく構成されていることを確認してください。詳しくは、9 ページの「WSUSサーバーの構成」を参照してください。
- 更新バンドルを準備します。

注：WSUS サーバーに公開できるのは、更新バンドルだけです。

手順

- ステップ 1. 更新バンドルを 1 つ以上選択し、
- ステップ 2. 「Actions (操作)」リストから、「Publish selected bundles to WSUS (選択した更新バンドルを WSUS に公開する)」を選択します。「公開ウィザード」が表示されます。
- ステップ 3. 「I accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意します)」を選択します。
- ステップ 4. 「Next (次へ)」をクリックして、確認ページに入ります。
リストされているすべての更新バンドルが WSUS サーバーに公開する準備ができていることを確認します。
- ステップ 5. 次のオプションを選択します。

「Create a supplement bundle (補足バンドルの作成)」。補足バンドルの形式は「「bundle name (supplement) (バンドル名は「補足」)」」です。これをデプロイして、更新する必要があります。クライアント・システムの数を確認することができます。バージョン比較のためのメタデータがありますが、更新ペイロードは含まれていません。補完バンドルをクライアント・マシンにデプロイしてから、更新バンドルをデプロイする必要があります。

- ステップ 6. 「Confirm (確認)」をクリックして、公開プロセスを開始します。
「Publishing Updates (更新を公開しています)」ページが表示されます。この操作は、完了するまでに数分間かかる場合があります。

「「Publishing operation is complete (公開操作が完了しました)」」ページには、公開の結果が表示され、WSUSサーバーに正常に公開された更新の数が示されます。公開されなかった更新がある場合は、リストされます。

- ステップ 7. 「Finish (終了)」をクリックします。

WSUS サーバーでの更新バンドルの状態の確認

このセクションでは、WSUS サーバーからの更新を検査する方法について説明します。

このタスクについて

この操作を行うには、WSUS サーバーへのネットワーク接続が必要です。

手順

- ステップ 1. 「Action (操作)」リストで、「Check bundle state on WSUS (WSUS でバンドルの状態を確認)」を選択します。「Check all update bundles from WSUS server (WSUS サーバーからのすべての更新バンドルを確認)」の操作が実行されている間は、進行状況ウィンドウが表示されます。この操作は、完了するまでに数分間かかる場合があります。
- ステップ 2. WSUSサーバーで更新バンドルの状態が確認されるた後で、更新バンドルの状態が「「Published (公開済み)」」または「「Not published (未公開)」」に更新されます。

WSUS サーバーで選択した更新バンドルを期限切れにする

このトピックでは、選択した更新バンドルを WSUS サーバーで期限切れにする方法について説明します。

このタスクについて

この操作を行うには、WSUS サーバーへのネットワーク接続が必要です。

重要：更新バンドルを期限切れにするオプションは、元に戻すことができません。

手順

- ステップ 1. 更新バンドルを 1 つ以上選択し、
- ステップ 2. 「Actions (操作)」リストから、「Expire Selected bundles on WSUS (選択したバンドルを WSUS で期限切れにする)」を選択します。「Expire Wizard」が表示されます。

期限切れの操作が完了すると、選択した更新バンドルの状態が「Expired (期限切れ)」に変更されます。

選択した更新の削除

選択した更新と更新バンドルをLenovo更新リポジトリから削除できます。ただし、Lenovo更新リポジトリから削除された更新バンドルはWSUSからは削除されません。

手順

ステップ 1. 1つまたは複数の更新または更新バンドルを選択します。

ステップ 2. 「Actions (操作)」リストから、「Delete Selected updates (選択した更新を削除)」を選択します。選択した更新または更新バンドルが削除されます。

第 6 章 Microsoft System Center Configuration Manager の操作

このセクションのトピックでは、Microsoft System Center Configuration Managerを使用して更新を管理およびデプロイする方法について説明します。

注：更新をデプロイする前に、ソフトウェアの更新ポイントの役割が正しく追加および構成されていることを確認してください。

WSUS から SCCM への Lenovo 更新バンドルの同期

WSUS から SCCM への Lenovo 更新バンドルの同期方法について以下の手順で説明します。

始める前に

ソフトウェアの更新ポイントの役割が SCCM サーバーでセットアップおよび構成されていることを確認します。

手順

- ステップ 1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「Start (スタート)」 → 「All Programs (すべてのプログラム)」 → 「Microsoft System Center」 → 「Configuration Manager」 → 「Configuration Manager Console (Configuration Manager コンソール)」をクリックします。
- ステップ 2. ナビゲーション・ペインで、「Software Library (ソフトウェア・ライブラリー)」 → 「Overview (概要)」 → 「Software Updates (ソフトウェア更新プログラム)」の順に展開します。

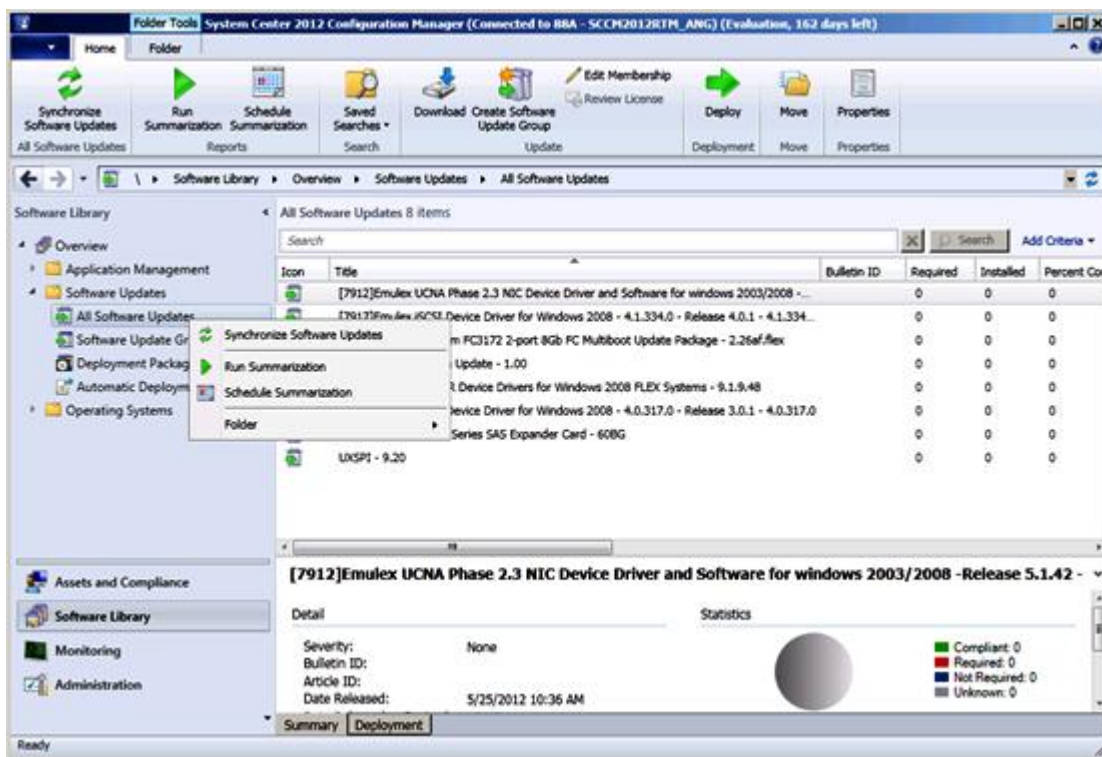


図3. 更新リポジトリの同期

- ステップ3. 「ソフトウェア更新」を展開し、「All Software Updates (すべてのソフトウェア更新)」を右クリックして、「Synchronize Software Updates (ソフトウェア更新の同期)」を選択します。
- ステップ4. 「Yes (はい)」をクリックして、サイト全体でのソフトウェア更新の同期を開始します。同期化処理は終了まで数分かかることがあります。処理が完了したことを示す表示はありません。
- ステップ5. 次の手順を実行して、同期が正常に完了したかどうかを確認します。
- ナビゲーション・ペインで、「Monitoring (監視)」 → 「System Status (システム・ステータス)」 → 「Site Status (サイトのステータス)」の順に展開します。
 - 「site server (サイト・サーバー)」を展開して、「Component Status (コンポーネントのステータス)」をクリックします。
SCCMサーバーのコンポーネントおよび各コンポーネントの状況のリストが、結果ペインに表示されます。
 - 結果ペインで、「SMS_WSUS_SYNC_MANAGER」を右クリックして、「Show Messages (メッセージを表示)」 → 「All (すべて)」を選択します。
サイト・サーバーの「SMS Status Message Viewer (SMS ステータス メッセージ ビューアー)」ウィンドウが開き、WSUS Sync Manager の状況メッセージが表示されます。同期処理が開始された時刻、進行中であった時刻、および完了したかどうかを示す最新のメッセージに注目してください。
- ステップ6. 同期が正常に完了したら、更新を最新表示します。
- ステップ7. Lenovo XClarity Integrator System Updates から公開された更新バンドルが、更新リストに表示されます。更新バンドルが表示されない場合は、ソフトウェア更新ポイントの役割で以下の設定を確認します。
- 「Administration (管理)」 → 「Site Configuration (サイト構成)」 → 「Overview (概要)」 → 「Sites (サイト)」をクリックし、サイトを右クリックして「Configure Site Components (サイト・コンポーネントの構成)」 → 「Software Update Point (ソフトウェア更新ポイン

ト)」を選択します。「Software Update Point Component Properties (ソフトウェアの更新ポイントのコンポーネント・プロパティ)」ウィンドウが表示されます。

- b. 「Classifications (分類)」タブで、「Updates (更新)」が選択されていることを確認します。
- c. 「Products (製品)」タブで、「Lenovo」 および関連するマシン・タイプが選択されていることを確認します。
- d. ソフトウェア更新を再度同期します。

Lenovo 更新バンドルの最大実行時間を構成する

このトピックでは、SCCM で Lenovo 更新バンドルの最大実行時間を構成する方法について説明します。

このタスクについて

デフォルトでは、ソフトウェア更新の最大実行時間は 10 分です。ただし、ファームウェア更新が完了するまでに時間がかかる場合があります。最大実行時間は、1 つの更新バンドルに含まれる更新の数に応じて増加します。

更新バンドルに 1 つの更新がある場合は、最大実行時間を 30 分に変更することをお勧めします。更新バンドルに複数の更新がある場合は、各更新ごとに 10 分追加します。

手順

ステップ 1. ソフトウェア・ライブラリー・ペインで、「Overview (概要)」 → 「Software Updates (ソフトウェア更新)」 → 「All Software Updates (すべてのソフトウェア更新)」の順にクリックします。

ステップ 2. Lenovo 更新バンドルを右クリックします。「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

ステップ 3. 「Maximum Run Time (最大実行時間)」を選択し、最大実行時間を変更します。

SCCM での Lenovo 更新バンドルの状態の表示

以下の手順では、SCCM で更新バンドルの状態を表示する方法について説明します。

このタスクについて

このタスクは、SCCM コンソールで実行します。

Lenovo 更新バンドルの状態を SCCM で表示するには、「Overview (概要)」 → 「All Software Updates (すべてのソフトウェア更新)」を展開し、ソフトウェア・ライブラリー・ペインで「All Software Updates (すべてのソフトウェア更新)」を右クリックします。

対応するクライアントに更新がデプロイされた後、サイト・データベースは次のソフトウェア更新がスキャンされるたびに、クライアント・システム上のクライアントから、各更新が各クライアントに対して適用可能であるかインストール済みであるかの報告を受信します。管理者は、報告されたデータを参照し、以下の情報に基づいて、どの更新を配布する必要があるかを決定します。

インストール済み

更新がインストールされたクライアントが表示されます。

必須

更新がインストールされたクライアントが示され、更新が適用可能であるがまだインストールされていないこと、またはインストール状況がサイト・サーバー・データベースに同期されていないことが報告されます。

不要

更新が適用されないクライアントの数が表示されます。

不明

更新が適用されないクライアントの数が表示されます。ソフトウェア更新コンプライアンスのスキャンが実行されないか、スキャン結果がサイト・サーバーに同期されていません。

注：デフォルトでは、同じマシン・タイプのクライアント・システムの更新バンドルは「必須」です。更新バンドルがクライアントにデプロイされると、ステータスは次のように更新されます。

- **インストール済み:** バンドル内の少なくとも1つの更新がクライアントにインストールされています。
- **不要:** バンドル内の更新は不要であり、クライアントにインストールされています。

SCCM でのLenovo更新バンドルのデプロイ

どの更新を配布する必要があるかを判別後、管理者はそれらのLenovo更新バンドルを選択し、デプロイメント・パッケージを作成することでそれらをクライアント・システムに配布します。

ターゲット・コレクションのクライアントが管理ポイントから新しいデプロイメント・パッケージを受け取ると、クライアントは、必要なソフトウェア更新バイナリーを含むデプロイメント・パッケージがある配布ポイントから、ソフトウェア更新をダウンロードします。その後、バイナリーがクライアントにインストールされ、対応ステータスがサイト・サーバーに報告されます。

Lenovo 更新バンドルをクライアント・マシンにデプロイする前に、SCCM サーバーおよびクライアント・マシンが正しく構成されていることを確認してください。

クライアント・システムの構成

更新を受信するには、ユーザーがクライアント・システムを構成する必要があります。

手順

- ステップ 1. クライアント・システムを検出して、SCCM サーバーを介して管理エージェントをインストールします。
- ステップ 2. クライアント・システム上で WSUS 証明書を構成します。SCCM の管理対象クライアント・システムには、「Trusted Root Certification Authorities (信頼されたルート証明機関)」フォルダー内に WSUS Publishers 証明書があることを確認します。
- ステップ 3. Windows グループ・ポリシー・エディターを使用して、クライアント・システムで「**Allow Signed Content from the intranet Microsoft update service location (イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済みコンテンツを許可する)**」にチェックを入れます。
- ステップ 4. 以下の手順を実行してクライアント・コンピューター上でグループ・ポリシーを構成します。
 - a. クライアント・システムで、「**Start (スタート)**」をクリックし、「**Run (実行)**」を選択して「**GPEDIT.MSC**」と入力し、「**OK**」をクリックします。
 - b. 「**Computer Configuration (コンピュータの構成)**」 → 「**Administrative Templates (管理用テンプレート)**」 → 「**Windows Components (Windows コンポーネント)**」 → 「**Windows Update**」を展開します。

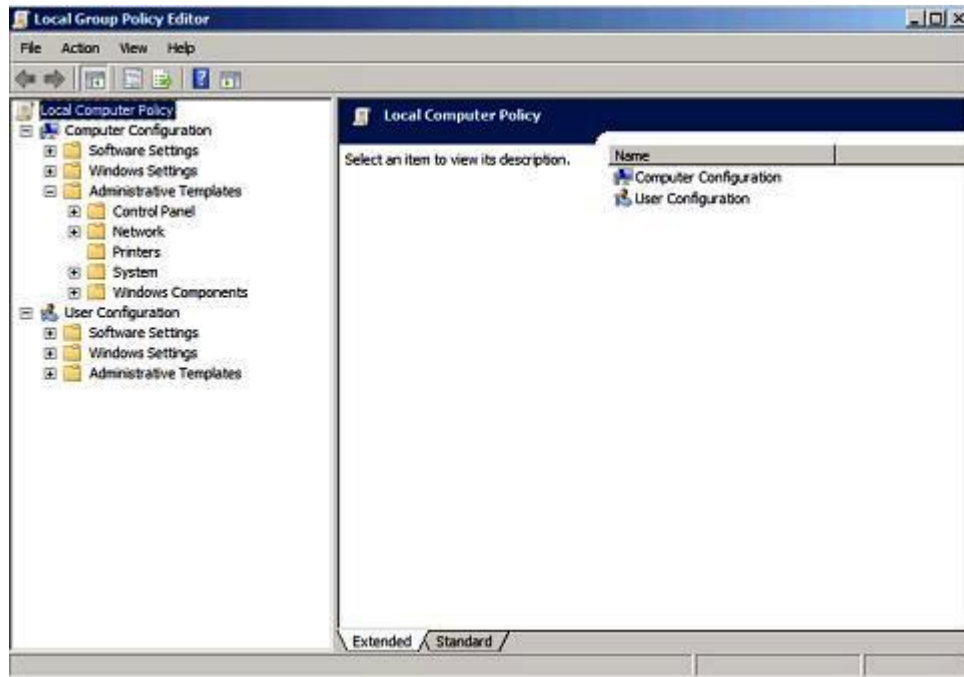


図4. ローカル・コンピューター・ポリシーの構成

- c. 「Allow signed content from intranet Microsoft update service location (イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済みコンテンツを許可する)」をダブルクリックします。

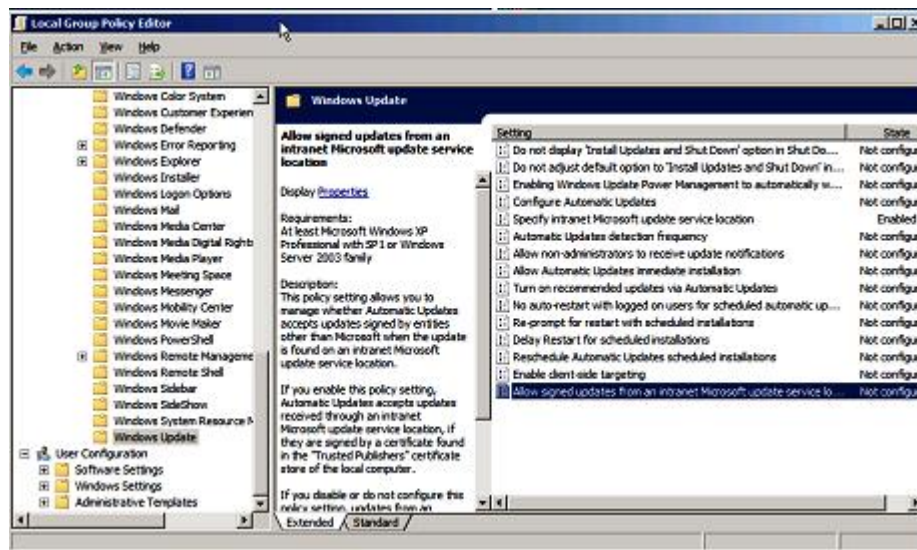


図5. イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済み更新を許可

- d. 「Enabled (有効)」を選択して「OK」をクリックします。
 e. グループ・ポリシー・エディターを閉じます。

次に行うこと

Lenovo更新をクライアント・マシンにバンドルする前に、Microsoft .NET Framework バージョン 4.0 以降のバージョンがクライアント・システムにインストールされていることを確認してください。

クライアント・システムへのLenovo更新バンドルのデプロイ

SCCMサーバーからクライアント・システムにLenovo更新バンドルをデプロイする方法について、以下の手順で説明します。

このタスクについて

このタスクは、SCCM コンソールから実行します。

手順

- ステップ 1. ソフトウェア・ライブラリー・ペインで、「Overview (概要)」 → 「Software Update (ソフトウェア更新)」 → 「All Software Updates (すべてのソフトウェア更新)」の順に展開します。
- ステップ 2. 右ペインで、デプロイメント用の更新バンドルを右クリックし、「Deploy (デプロイ)」を選択します。
- ステップ 3. Lenovo 更新バンドルを、その他の通常のソフトウェア更新としてデプロイします。

注：SCCM での更新デプロイメントについての詳細は、<https://docs.microsoft.com/en-us/configmgr/sum/deploy-use/deploy-software-updates> を参照してください。

クライアント・システムへの Lenovo 更新バンドル (補足バンドル付き) のデプロイ

このトピックでは、SCCM サーバーからクライアント・システムに Lenovo 更新バンドル (補足バンドル付き) をデプロイする方法について説明します。

XClarity Integrator システム更新から WSUS に Lenovo 更新バンドルを公開する際に、補足バンドルの生成を選択した場合は、最初に補足バンドルをクライアントシステムにデプロイしてから、Lenovo 更新バンドルをデプロイする必要があります。

補足バンドルと更新バンドルは、他の通常のソフトウェア更新として SCCM にデプロイすることができます。

付録 A トラブルシューティング

このセクションのトピックは、Lenovo XClarity Integrator System Updates で発生する可能性がある問題のトラブルシューティングに役立ちます。

XClarity Integrator System Updates のログ・ファイルを構成する方法

XClarity Integrator System Updates ホスト・マシンおよびクライアント・システムの両方のログ・レベルの値を変更できます。

XClarity Integrator System Updates は、以下のレジストリー・キーを使用してログ・レベルを記録します。

- [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Management Integrations\Log]
- LogLevel=Info

使用可能な *LogLevel* 値は、Debug (デバッグ)、Info (情報)、Warning (警告)、Error (エラー)、および Fatal (致命的) です。

デフォルトでは、Info (情報) 値が使用されます。

更新が WSUS に公開されない

問題

XClarity Integrator System Updates から WSUS に更新が公開されません。

考えられる解決策

何が発生したかを確認するには、%SystemDrive%\Program Files (x86)\Lenovo\Lenovo System Updates\Log にあるログファイルを確認します。

ファイル署名の検証が失敗するエラーが原因で、WSUS への更新が公開されない

問題

ファイル署名の検証が失敗するエラーが原因で、XClarity Integrator System Updates が WSUS への更新が公開されない。

考えられる解決策

9 ページの「「Setup (セットアップ) ウィザード」の説明に従って、WSUS Publishers 証明書が「Trusted Root Certification Authorities (信頼されたルート証明機関)」にコピーされたことを確認してください。

XClarity Integrator System Updates の実行中に、レジストリー内のログ・レベル値の変更が有効にならない

問題

XClarity Integrator System Updates の実行中にログ・レベル値を変更しても、新規の値が即時に有効にならない。

考えられる解決策

XClarity Integrator System Updates を閉じてから、再度ツールを起動して変更を有効にしてください。

付録 B アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

Lenovo は、年齢あるいは身体的能力に関係なく、あらゆるユーザーがアクセスできる製品を提供するよう努力しています。

Lenovo XClarity Integrator System Updates は、システム管理ソフトウェアに組み込まれているアクセシビリティ機能をサポートします。アクセシビリティ機能およびキーボード・ナビゲーションに関する具体的な情報については、ご使用のシステム管理ソフトウェアの資料を参照してください。

Lenovo XClarity Integrator System Updates のトピック集およびその関連資料は、Lenovo ホーム・ページ・リーダーのアクセシビリティ機能が有効になっています。すべての機能を、マウスの代わりにキーボードを使用して操作することができます。

Lenovo XClarity Integrator System Updates の資料は、Adobe Acrobat Reader を使用して Adobe PDF 形式で表示することができます。Lenovo XClarity Integrator System Updates のダウンロード・サイトから PDF にアクセスすることができます。

Lenovo とアクセシビリティ

アクセシビリティに対する Lenovo の取り組みについて詳しくは、[Lenovo アクセシビリティ Web サイト](#)を参照してください。

付録 C 注記

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、Lenovo の営業担当員にお尋ねください。

本書で Lenovo 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その Lenovo 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、Lenovo の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、他の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

Lenovo は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

*Lenovo (United States), Inc.
8001 Development Drive
Morrisville, NC 27560
U.S.A.
Attention: Lenovo Director of Licensing*

LENOVO は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。Lenovo は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書で説明される製品は、誤動作により人的な傷害または死亡を招く可能性のある移植またはその他の生命維持アプリケーションで使用されることを意図していません。本書に記載される情報が、Lenovo 製品仕様または保証に影響を与える、またはこれらを変更することはありません。本書の内容は、Lenovo またはサード・パーティーの知的所有権のもとで明示または黙示のライセンスまたは損害補償として機能するものではありません。本書に記載されている情報はすべて特定の環境で得られたものであり、例として提示されるものです。他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。

Lenovo は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務を負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本書において Lenovo 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この Lenovo 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

商標

LENOVO、FLEX SYSTEM、SYSTEM X、NEXTSCALE SYSTEM は Lenovo の商標です。

インテルおよび Xeon は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の商標はすべて、個々の所有者の財産です。© 2020 Lenovo

重要事項

プロセッサの速度とは、マイクロプロセッサの内蔵クロックの速度を意味しますが、他の要因もアプリケーション・パフォーマンスに影響します。

主記憶装置、実記憶域と仮想記憶域、またはチャネル転送量を表す場合、KB は 1,024 バイト、MB は 1,048,576 バイト、GB は 1,073,741,824 バイトを意味します。

ハードディスク・ドライブの容量、または通信ボリュームを表すとき、MB は 1,000,000 バイトを意味し、GB は 1,000,000,000 バイトを意味します。ユーザーがアクセス可能な総容量は、オペレーティング環境によって異なります。

Lenovo は、他社製品に関して一切の保証責任を負いません。他社製品のサポートがある場合は、Lenovo ではなく第三者によって提供されます。

いくつかのソフトウェアは、その小売り版 (利用可能である場合) とは異なる場合があります、ユーザー・マニュアルまたはすべてのプログラム機能が含まれていない場合があります。

Lenovo